

2024 年度 外部評価委員会

(大学等における修学の支援に関する法律第 7 条第 1 項の各任に係る事業に関する会議)

2025 年 5 月 19 日 (月)

9 : 10 ~ 開催

北海道社会事業協会帯広看護専門学校

議題 1. 令和 6 年度学校運営目標と運営計画に関する報告

資料 1. 2024 年度 北海道社会事業協会 帯広看護専門学校 事業計画 評価

(参考資料 1. 国家試験結果 参考資料 2. 帯広看護専門学校 受験者推移)

資料 2. 今後の課題

別紙 1. 受験者推移

別紙 2. 令和 6 年度交流会アンケート

議題 2. 1 の報告に関する議論と今後の課題に向けた議論

1) 受験者・入学者確保について

2) 卒業生の就職後定着に向けた取り組みについて

出席者：北海道社会事業協会 小樽病院 看護部長 濱田奈緒子 様

臨床実習先責任者 北海道社会事業協会帯広病院 看護部長 浜名真由美 様

司会・書記 北海道社会事業協会帯広看護専門学校 教務部長 加藤由美

議事録

当校会議室にて実施 (濱田看護部長は web にて出席)

1. 教務部長から 学校運営事業計画評価報告

2. 報告後 議題 2 を中心に意見交換

【 両委員からの質問・意見 】

委員意見：受験者確保への取り組みについて 他県の看護学校の取り組みが公表されており、オープンキャンパスに参加してくれた高校生一人ひとりに、期間を空けて学校の取り組みやメッセージ等を送って、学校の印象をさらに強めるという取り組みをしているという報告があった。効果があったかどうかはでていないが、少しでも高校生を引き付ける取り組みをしていくのも良いのではないかと。在校生一人ひとりの丁寧なサポートや国家試験 100% を Instagram などでも up しているが、卒業時学生への教育理念到達度のアンケート結果もホームページにあげていくなどの取り組みもしていくといいのではないかと。昨年ふれあい看護体験(帯広協会病院)に来た高校生 20 名のうち 8 名が貴校に入学または当会の奨学生になっていた。帯広病院だけではなく、ふれあい体験に来てくれた高校生が当会の看護師になりたいという気持ちになれるよう、シャドーイングをして実践の場をみせ、イメージ化できることが大事かもしれない。看護の魅力を伝え続けること必要。

あとは社会人をどう取り込んでいくか。

現在社会人枠は何か制限はあるのか → 学校：それはしていない

委員意見：今年小樽病院に社会人が入職した二人（他専門学校から）が、元々一度社会に出ているからか、社会人基礎力が高い。環境になじみやすい。即戦力に近い感じがあり、社会人もいいと思った。30代で結婚して子どもがいる人もいるが、目指すものが高い。1回社会に出てからもう一度学んでいるからか、勤勉で真面目。ただ十勝管外の社会人が帯広の看護学校に受験をしに行くかが課題。

委員意見：やはり寮や借り上げ住宅があれば十勝管外からも受験してもらえるのではないか。住宅の問題はついてまわるのではないか。十勝管内にある看護学校・短大には寮などはあるのか？

学校：ないです。ほぼ十勝管内の高校生が入学してくるのが現状。

委員意見：他の学校にそのような寮や住宅がないのであれば、なおさら協会の看護学校が寮などを持つことは強みになるのではないか。貴校の先生方が細やかな対応をしてくれていると新入職者をみて感じている。メンタルサポートが必要な職員がでた時、誰に一番相談したいと聞くと、先生に会いたいという。本当にいい関わりをしてくれていると感じる。高校に学校説明に行く際に卒業生（新人看護師）を連れて行ったりするものいいのではないかを思います。

委員意見：高校生が以前よりも看護に興味を持っていないと感じる。やはりコロナから大変な仕事というイメージ。看護の日のイベントに子どもたちが来なくなっている。いかに尊い仕事なのかということを伝えていくか。中学生への訪問はどうか。オープンキャンパスはやっているが。

学校：中学生への訪問はしていない。オープンキャンパスと職業体験の受け入れを何校か行っている。2024年は3校を受け入れている。

委員意見：帯広病院では8校くらい職業体験で中学生を受け入れている。PRはしていないが依頼があれば受けている。

委員意見：一度中学校で講義をしたことがある。授業の一環として呼んでもらい、命を考える授業というような。看護というよりも命を預かる職業に興味を持ってもらうことから始めて、看護師という職業を中学生の時に植え付けなくてはいけないのではないか。それは学校だけの問題ではないかもしれないが。

高校生になったらもうやりたいことは決まっている感じなのか？

学校：高校も1年生くらいだとまだ進路が決まっていない子も多い。高校はいくつかは授業に行くのでPRも行くと、看護に興味がある生徒がいる。高校2年生後半になると進路が固まってくる生徒が多い。高校1年生へのアプローチは考えてみる余地があるかもしれないです。それは高校の先生とできることがあるか考えられるかもしれません。

委員意見： がん予防の講義かなにか高校へ行った。病気の話からだが、少しでも病院・看護に興味を持ってもらう授業も良い。認定看護師や現場の事例だったり、看護師の声をこれからの受験生に届けていくことも必要。

学校： やはりまずは看護。学校の PR もそうですが、看護師に興味を持たなければ受験生が増えない。

委員意見： 社会人はどこかにポスターなど貼っているのか？

学校： 市役所にポスターや募集要項を持って行ったりはしている。母子の人も多いので。ここ 2 年入学してきた社会人は地元であった。

委員意見： 地域・回復期・療養をどう PR していくか。地域で学ぶことの魅力をどう伝えるか。十勝管外の高校生に受験してもらい、手厚いサポートと国家試験 100%の学校で学び、地元で働くという環境を整えると、もっと受験生に PR できるのではないか。諦めず高校訪問は続けた方が良いと思います。

学校： 卒業後の定着という点ではいかがでしょうか。

委員意見： 半年くらいすると色々任されてインシデントもあったり、独り立ちでプリセプターにもなかなか会えずになったりしていく時期。落ち込む前にそのような機会があると良い。こちらが機会を作って話をしていないといけない状況である。夏期休暇くらいに卒業生を学校に呼ぶ取り組みをしている大学もある。仲間と会って今の自分の状況を伝えたり、先生方に自分の気持ちを聞いてもらえるような機会を作ってみるのも良いのではないか。

学校： 当校の年間計画と照らし、できそうなところがあれば検討し、卒業後のフォローという部分も強化できればと考えます。

委員意見： 帯広看護専門学校の卒業生は社会人基礎力が高いと思います。教育効果が出ていると思います。教育の方向性は現状で良いと思う。教育理念を土台とした教育を進めていってほしい。ホームページに卒業生のアンケートの結果や生の声を載せていくといいと思います。

以上